

技術提案書評価基準 (御堂筋道路空間再編工事等に伴う工事監督総合支援業務委託)

参加表明書の提出者の技術提案書評価基準は、以下のとおりとする。

(1) 評価要領および評価表

本業務における特定テーマおよび技術提案書を特定するための評価表は以下のとおりとする。
評価は①～⑪の各項目毎に、A、A'、B、Cの4段階とし、それぞれ次のように点数を計算して100点満点（小数点第2位まで表示）で総合評価し、最高得点者を特定することを原則とする。

＜計算方法＞

A の場合は、配点×5/5点 B の場合は、配点×3/5点
A' の場合は、配点×4/5点 C の場合は0点

特定テーマ1	内容	本業務の対象としているエリアは、車、歩行者、自転車などの交通量が多く、荷捌き車やタクシーなど多様な車両などが行き交う地域であり、周辺には複数の商店街があり、大阪を代表する繁華街である「ミナミ」の中心地となっている。 このようなエリア内で、複数の対象となる工事について、工程調整や現場管理、設計意図やデザイン等を確実に現場施工に反映する必要があり、円滑な事業進捗を図っていくための課題や留意点について列挙し、それらに対する取り組みの方針を述べてください。
特定テーマ2	内容	特定テーマ1で述べた業務実施にあたっての課題や留意点を踏まえた、効率的かつ効果的な業務の実施体制や方法などについて述べてください。 また、効率的なICT技術を活用した業務遂行方法について提案してください。

(評価シート及び評価例)

評価項目	評価の着眼点	配点		評価	評価の換算計算	評価点			備考		
		項目別	複数時配分			項目別配分	項目別配分	複数時配分		項目別	
配置予定技術者	管理技術者	30	15	10	A	$10 \times \frac{5}{5}$	10	15	26.0	①	
				5	A	$5 \times \frac{5}{5}$				5	②
	担当技術者		10	B	$10 \times \frac{3}{5}$	6	11	③			
			5	A	$5 \times \frac{5}{5}$			5		④	
実施方針 実施フロー 工程表 その他	業務の理解度	30	15	10	A	$10 \times \frac{5}{5}$	10	26	26.0	⑤	
	実施手順			10	B	$10 \times \frac{3}{5}$				6	⑥
				5	A	$5 \times \frac{5}{5}$					5
	その他			5	A	$5 \times \frac{5}{5}$				5	⑧
特定テーマに対する技術提案	特定テーマ1 的確性	20	20	10	B	$10 \times \frac{3}{5}$	6	16	36.0	⑨	
				10	A	$10 \times \frac{5}{5}$				10	⑩
	特定テーマ2 実現性			20	A	$20 \times \frac{5}{5}$	20			20	⑪
合計（100点満点）					88.0						

(2) 技術者評価基準

評価項目のうち、配置予定技術者に関わる項目については、以下のとおり評価する。

評価項目		評価の着眼点	A	A'	B	C	備考	
配置予定技術者の経験及び能力	管理技術者	資格要件	技術者資格、その専門分野の内容	管理技術者が技術者資格を3つ以上有している。	管理技術者が技術者資格を2つ有している。	管理技術者が技術者資格を1つ有している。	—	①
	担当技術者		技術者資格、その専門分野の内容	担当技術者が技術者資格を3つ以上有している。	担当技術者が技術者資格を2つ有している。	担当技術者が技術者資格を1つ有している。	—	③ (注)
	管理技術者	専門技術力	過去10年間の同種または類似業務の実績内容	管理技術者が両方の規定業務の実績を有している。	—	管理技術者がいずれかの規定業務のみの実績を有している。	—	②
	担当技術者		過去10年間の同種または類似業務の実績内容	担当技術者が両方の規定業務の実績を有している。	—	担当技術者がいずれかの規定業務のみの実績を有している。	—	④

(注) 担当技術者の資格要件における評価基準について、複数の担当技術者を配置する場合は、資格数が最大の者を評価する

(3) 提案内容評価基準

評価項目のうち、提案内容に関わる項目については、以下のとおり評価する。

評価項目		評価の着眼点	A	A'	B	C	備考
実施方針・実施フロー・工程表・その他	業務の理解度	目的、条件、内容の理解	目的、条件、内容の理解が特に優れている。	—	目的、条件、内容の理解が十分である。	目的、条件、内容の理解が不十分である。	⑤
	業務実施手順（フロー・工程表）	実施手順の妥当性	業務実施手順が妥当であり、非常に実効性のある工程である。	—	業務実施手順が概ね妥当である。	業務実施手順に矛盾がある。	⑥
		業務量の把握、人員配置の妥当性	業務量の把握も優れており、不測時の対応も可能な人員配置である。	—	業務量の把握、人員配置が概ね妥当である。	業務量の把握、人員配置が不十分である。	⑦
	その他	重要事項の指摘	要請時点で示し落とした重要事項の指摘があり、対応策も提案されている。	—	要請時点で示し落とした重要事項の指摘がある。	要請時点で示し落とした重要事項の指摘がない。	⑧
特定テーマに対する技術提案	特定テーマ1	課題の理解度	課題を深く分析しており、理解が特に優れている。	—	課題が概ね示されており、理解が十分である。	内容が的確性を欠くなど、課題把握として不十分である。	⑨
		キーワードの網羅	必要なキーワードが網羅されている（80%以上）。	—	左右に該当しない（60%以上80%未満）。	必要なキーワードが不十分である（60%未満）。	⑩
	特定テーマ2	実現性	説得力があるか	具体的かつ論理的に示されており、説得力がある提案である。	—	具体的に示されており、提案としては十分である。	内容に具体性を欠くなど、提案としては不十分である。